



GOVERNOR'S Monthly Letter

国際ロータリー 第2580地区 ガバナー月信

June 2021
No. 12

6

ガバナー 野生司 義光

いよいよ、ガバナー月信も最後の号となりました。1年間お読みいただきましてありがとうございます。最終号はこの1年間で、記憶に残ったことを思いつくまに書いてみたいと思います。

4月に地区大会が終わりました。皆様は全員が地区大会には出られなかったと思いますが、YouTube配信をご覧になりましたでしょうか。コロナ禍ですので、ソーシャルディスタンスを取るために、2,000人入る会場に1/3の650人に絞って行いました。

前日の、RI会長代理晩餐会もホテルニューオータニの一番広い会場で、220人で行いました。テーブルも間隔をあけて、直径2mのテーブルに4、5人にしまして、高さ90cmのアクリル板を一人一人に立てて、考えられるかぎりすべての安全対策をして行いました。



4月8日 地区大会本会議場にて 野生司ガバナー

それでも、日本の34地区中、人数としては、最大の地区大会だったと思います。大半の地区は、外部の人は入れないようにしておりました。

地区大会が終わりますと、普通はこれですべて終わったと、今までのガバナーは思います。しかしながら、私には公式訪問がまだ残っていました。

先日、石垣ロータリークラブの60周年のお祝いに行って参りました。記念式典の前日にサンセットクルージングを行いました。なかなか、粋な計



石垣ロータリー 60周年ガーデンパーティー



らいです。そして偉いことにPCR検査を参加者全員にお願いをしたことです。ロータリーの集まりで、私は聞いたことがありません。会の開催を止めることは簡単です。いかにしたらできるかを考えた末の結論です。記念式典当日も、大変良い天気にも恵まれました。石垣ANA インターコンチネンタルホテルのガーデンで夕方からの大会でした。余興も素晴らしく盛り上がり、大盛況でした。

最後に医療従事者に感謝すべく、打ち上げ花火が1分半打ち上げられて、幕になりました。

昨年1月にサンディエゴの国際協議会に参りまして、世界中から1,500人以上のロータリアンが集まります。世界には約520の地区があります。世界中からガバナーエレクトとそのパートナーが集まり、それ以外に、その国ごとの、研修リーダー、理事、コーディネーターも参ります。ローターアクトも参ります。相当の費用が掛かると思います。エコノミー料金の往復飛行機代、ホテル代、食事代、すべてRI持ちです。我々の人頭分担当金はこんなところに使われているのかと思います。この新型コロナパンデミックは昨年の沖縄での地区大会の最終日に、那覇のタクシーの運転手さんがかかったとの話がありまして、地区大会が危機一髪を感じがいたしました。

それから、緊急事態宣言が出まして、野生司年度の地区チーム研修を中止にして、PETSと地区研修協議会を一緒にすることにし、録画データをお送りしました。

その後は、各クラブも休会をしたクラブが多かったと思います。6月に入って、ガバナー補佐会議を開いたのですが、私は第一に会員増強を掲げたのですが、会員増強の前に退会防止を呼び掛けたほうが良いとの事が決まりました。

なぜ会員増強と申しますと、日本の各地区の1万人当たりの、ロータリアン数がデータで出ています。北海道の2500地区では1万人当たり15.08人のロータリアンがいる。それに対して我が地区は3.68人、日本の平均は7.03人。平均の半分しかない。東京だから仕方がない。人口が多いのだから。と思ったりもします。それではお隣の2750地区はどうか。東京の南半分。7.34人です。2850地区の倍の人数がいるのです。

このことをガバナーノミニージェグネートになってから研修のたびに言われるのです。お前の地区は最低だと。これに腹が立って、何が何でも増強しなければならなかったのです。日本の34地区中最低の地区が、我々2580地区です。それでは34番目から33番目になるにはどうしたらよいか。それには、500人の増強が必要です。500人の増強とは、各クラブ20%の増強ということです。それを3年以内にしてほしいと思うのです。

量より質だと言います。その通りだと言います。私共の東京小石川ロータリークラブは80数人のクラブでした。私がガバナーノミニージェグネートになった時に、小石川に行きたかったけれど、別のクラブを紹介されたという人に、何人も会いま

した。

今思えば、当時はかなり人を選んでいたのでですね。確かに錚々たるメンバーでした。今はどうでしょう。40人のクラブです。会員選考はどうか。希望者ははっきり言って、誰でも入れています。人数を増やしたいからです。経済的にも安定します。人数が少ないとそうなるので。質と量の話は微妙なバランスの上で成り立っていると思うのです。

ところで、この新型コロナパンデミックで例会がどうなったかと言いますと、大体、休会です。東京ロータリークラブを始め古いクラブは休会です。比較的若いクラブは、ハイブリッド例会が多くなっています。ハイブリッド例会とは、リアルな例会(普通の例会)とzoomでの発信をしたオンラインでの例会を同時にする例会ですね。比較的若いクラブは、このようにしています。それと、ローターアクトを持っているクラブは、ローターアクトにzoomを教えてもらって行っています。

東京お茶の水ロータリークラブは、今の会長が張り切っていて、オンライン参加型(ハイブリッド)会員を募るとして、年会費40万円のところを、オンライン会員は15万の年会費にと言っています。1年間で10人、2年目でさらに10人、3年目でさらに10人、3年間で30人増強すると言っています。コロナ禍でやめる会員も多いと言われています。それでEクラブを作って上手くいったと、熊本大分地区では言っていました。しかしながら、わざわざ、新しいクラブを作らなくとも、既存のクラブで、オンライン会員にすれば良いのです。そうすれば早話も聞けます。食事は自前のお弁当を食べれば良いのです。しかし、親睦も大事です。先程のお茶の水ロータリーは5年経ったら、正規の会員になってもらうと言っていました。

こんなクラブもありました。東京臨海ロータリークラブです。昨年末に、衛星クラブを作ったのです。衛星クラブとは、ロータリークラブ設立のための手段のひとつです。衛星クラブは、本格的な独立したロータリークラブとなるまでの短期間の移行的形態です。ロータリークラブは20人以上の会員が設立時に必要です。衛星クラブは会費も安く設定できます。2580地区には東京池袋NEXTロータリー衛星クラブがあります。東京臨海ロータリークラブに、今までにお声がけをしたが、断られた人たちにもう一度、お声がけをして、衛星クラブに入ってもらいました。会費は11万円です。それで、月の1度、親クラブと錦糸町にあります東武ホテルレバント東京で例会をする。そのうちに、良かったら、親クラブに入会してもらおう。現在22名の会員がいます。いろいろ考えますよね。会長が若いのです。30代。30前半の時に、会社の売り上げを伸ばしたくない?と誘われ、ロータリーに入れば売り上げが増えるよと言われたらしいです。それで入った。実際に、売り上げが2倍以上になったらしいのです。

コロナでzoomの発達は相当なものですね。地区大会も小池百合子都知事の講演が急遽、都庁からzoomになりました。でも、



東京都庁での寄付金贈呈を ZOOM で地区大会会場へ中継した

非常に上手いったと思います。zoomで講演をする抵抗感は無くなりました。それで最後に、谷一地区幹事が都庁で、目録の贈呈と花束の贈呈をしました。あれも女性二人の構図で、非常に絵になっていました。

先日、ホルガー・クナーク RI 会長とも zoom で会議をしました。ドイツ、アメリカ・シカゴ、日本と三か国の会議です。それを、同時通訳を入れてしますと、ドイツ語、英語、日本語が選べるのです。私が日本語で話すと、同時にクナーク会長はドイツ語で聞けるのです。英語で話しても、私は日本語で聞けるのです。そこにタイムラグが無いのです。びっくりです。

コロナは zoom を、非常に発達をさせたと思っています。地区大会の RI 会長代理をお願いした辰野 RI 理事の話ですと、RI の理事会が年に 4 回あるようです。今までは、シカゴに世界中の理事が集まるわけです。しかしながら、今は集まることができませんので、当然ながら先ほどお話をしたように、各国から zoom で参加することになります。おそらくロータリーの公用語の通訳がすべてつくのだと思います。日本時間午後 9 時、ドイツ時間午後 1 時、シカゴ午前 7 時です。それ以外の国も、もちろん参加します。今までですと、年に 4 回でしたが、今は月に 2、3 回あるそうです。夜の 9 時からですので、お酒も飲みません。結構なストレスになるのではないかと思います。

私が 40 代の頃、当時ロータリーの理事は、英語が出来ないと、RI 理事にはなれないと言っていました。訳を聞いてから話しても誰も聞いていないというのですね。ヘッドフォンを外しているというのです。それが今回の zoom での会議はそのタイムラグが感じられないのは大変なことだと思います。益々、英会話を勉強するのをさぼってしまいます。

いずれにしても、今、国際ロータリーでは相当な資金がたまったのではないのでしょうか。そのうちに、今年度の収支が出るでしょうから、楽しみです。

私が、この 1 年間に感じたことを書かさせて頂きました。最後までお読みいただき、感謝いたします。

2020～21 年度を終えるにあたって。 13 人のガバナー補佐所感

西岡 孝志
ガバナー補佐
(東京紀尾井町 RC)



中央分区担当、東京紀尾井町 RC 所属の西岡孝志です。

一年以上にわたる新型コロナの影響で社会環境が激変し、千代田グループの東京、東京神田、東京麹町、東京紀尾井町、東京お茶の水、東京丸の内六クラブも、クラブ運営並びに奉仕活動に大きな打撃を受けました。

しかし、各クラブは困難な状況にも拘わらず、それぞれクラブの特性を生かし、活発なロータリー活動を行いました。

東京 RC は、2020 年 10 月 20 日創立 100 周年を迎え、百周年事業を成功に導くという基本方針で、各種のプロジェクトを実行し素晴らしい成果をあげました。

更に、新型コロナ禍において「コロナ基金」を立ち上げて各方面に支援すると共に、沖縄の病院に人工呼吸器を寄贈するなど、数多くの社会奉仕活動を行いました。今後も、日本全国のロータリークラブのリーダーとして新たな活動をされるものと期待しています。

東京神田 RC は、医療機関に対するプロジェクトとして医療用防護服支援をすると共に東北被災地支援をするなど、新型コロナウイルスに立ち向かう社会奉仕活動をしています。更に、地元神田に密着した奉仕活動も行っています。

東京麹町 RC は、ポリオ根絶を目指した、ポリオ根絶運動の創始クラブとして著名です。この他にも国際的な活動としてバリ医療支援グローバル Grant 事業、ヌサドア RC との共同医療支援プロジェクト等の活動を行っています。

国内では、ひとり親世帯に福島産のお米を配る活動を行っています。この支援は今後も中心的な事業として継続していく予定とのことです。

東京紀尾井町 RC は、コロナ禍の中で特に困窮していると思われる人々を援助するため、複数の奉仕活動の企画を立案し実践しています。

最近では、母子家庭をまとめている大規模な団体と提携して、生活に困窮している母親や子どもに対して食料品や生活用品や文房具などを支給して喜ばれています。

国際的な支援としては、タイ国プラオ郡の子どもとその家族に数百冊の書籍と絵本などを贈呈し、地元の RC の協力を得て本を

読む喜びと新たな知識を吸収する喜びを広げています。

東京お茶の水 RC は、長期間継続している支援活動を活発に行っています。

例えば千代田区の障害者共助会への支援。ロータリー希望の風奨学会への支援。NPO 法人「親子はねやすめ」（重い病気を抱えている子供たちの家庭）への支援。国際的には、タイ、チェンライのアカ族の子供達の識学率向上支援などです。

東京丸の内 RC は、公共イメージ向上のために大活躍しました。

それはコロナ対策として「コロナ禍の飲食マナー「五つの小」というタイトルで6分半の動画製作を企画し、千代田区広報課、千代田保健所等の協力を得て会員全員で完成させたことです。

この動画に RC 名と RC のロゴマークを入れてマスコミに発表したことで、日本経済新聞の朝刊にもこれが写真入りで掲載され、ロータリークラブの奉仕活動を広く世間に知らしめることができました。

本多 良美

ガバナー補佐

(東京新都心 RC)



今期は、コロナの影響でロータリー活動に多大な影響および制約が発生し、各クラブとも大変なご苦労をされてのクラブの運営がなされました。

今期、ガバナー補佐を拝命するにあたり、担当の各クラブが自分たちのロータリークラブの価値は何なのか、そんな議論を活発化させ、各クラブがこれから進むべき方向性を導き出すお手伝いをしたいと考えておりましたが、結果としては、活動が制限され、殆ど何もすることができませんでした。

過去の議論の中で明確なのは、ロータリークラブの魅力および価値の大きな部分は、そこに集う仲間の存在にあります。経済的ステータス、社会的ステータス、また、仕事や事業に対する取り組みや価値観が共通する仲間が、そこに集うことでロータリークラブの付加価値が形成されています。

クラブの更なる発展を考えると、我々が議論しなくてはならない重要な項目のひとつは、「排他性」です。一般の幅広い層の方々が入会してくる会ではなく、一部の特定の層、特定のドメインに存在する人たちがそこに集うので、クラブの価値が生まれます。例えば、どのようにして社会に貢献するのか、自分たちの会社や組織の社会的価値をいかに高めるのか、そんな議論に共感を持つことができ、食事、ワイン、旅行、ゴルフ、資産運用、等々、そんな共通の話題で時間を共有することができる仲間。そんな仲間の存在が我々のクラブの価値を創っています。

RI は、入会の垣根をどんどん低くして数を集める方向に傾斜していますが、これは、ロータリークラブの一般化、大衆化を招き、結果としてロータリークラブの存続の危機を招くものと危惧しています。RI が進もうとしている方向性に大きな危機感を感じております。

少なくとも、日本のロータリーにおいては、各クラブの活発な議論がなされ、クラブがより良い方向に進み、クラブの付加価値が向上するよう進んでいくことを節に願うばかりです。

加藤 幸男

ガバナー補佐

(東京練馬西 RC)



2021～22年度ガバナー月信最終号を迎えるということでこれが最後の投稿になるが、実際にはまだ残すところ2ヶ月を切ったところである。この一年間を振り返ると、(あまり実感がないのは否めません)「コロナの感染状況に振り回された。」の一言に尽きる。

幸いなことに担当クラブからは、一人も感染者を出すことなく、ガバナー公式訪問を予定通り開催し、この時期までできたのは幸いなことであるが、正直なところ年度が終わる頃の会員数が気がかりである。

クラブにより運営状況は、まちまちであるが、熱心に運営されていること、その腐心ぶりは如何ばかりか、思い至ることは難くない。

しかし、決してネガティブな感想ばかりでもない。何よりも ROTARY は、2度にわたる大戦を乗り越えているのだ。

偶然にも ROTARY は、(宿命を追っているのだろうか?)”ワクチン接種 “という言葉がキーワードになっている。

間も無く、次年度と合同の会長幹事会を実施するこの時に、「せめて後1回のクラブ訪問」を許されたいと思っている。

中央分區で私が担当する5クラブの皆様とは以前から懇意にさせていただいているが、今後さらに絆が深まることを切に願い、この年度一年間の思いとしたい。

「ありがとうございました。」

栃木 一夫 ガバナー補佐

(東京北 RC)



コロナ禍の中、やったこと やらなかったこと、やれなかったこと、参加したこと、我慢したこと。

いずれも、まずは国や自治体の方針優先、各クラブの対応を優先、感染拡大防止を優先して規模縮小、三密回避対策、懇親会や飲食の取りやめによる開催と本来の目的、意義を達成できたのか不自由な、中途半端感の残る一年でした。

毎週の例会、そして日頃煩わしく思っていたことも含め例会、自粛状況が続くと、例会場に行くことや人との出会い、雑談での情報交換等ロータリー活動が普通の暮らし、日常になっていたことにあらためて気づかされたように思います。

北分区の基本方針はリスク回避型でしたのでガバナー補佐としての役割を積極的に果たせず担当したクラブの会長幹事の皆様には大変申し訳なく思っていますと同時に、各クラブが前向きに対応していただいたことに感謝いたします。

ワクチン接種も始まりました。一日も早いコロナ騒動の終息を願います。そして休止した分のエネルギーを加えパワーアップしての本来のロータリー活動に戻りましょう。

加古 博昭 ガバナー補佐

(東京池袋 RC)



2020年5月25日に緊急事態宣言が解除されたことを受け、6月から担当するクラブの例会が再開され訪問しました。私の担当する5クラブの内4クラブが7月中にガバナー公式訪問が控えており、非常に慌ただしい日々が続いたと記憶しております。幸いにも9月30日で公式訪問をスケジュール通りに終えられたことは、各クラブのご協力の賜物と感謝する次第です。

2020～2021年度がスタートした時点で、この未知なるウイルスのため、北分区インターシティーミーティングを中止せざるを得ないと判断させていただきました。クラブ内に準備委員会を発足させていただきただけに残念な気持ちもあり、また早々に中止と言う判断にご批判もいただきましたが、私の中ではやむを得ないという気持ちが交錯しました。

2021年1月23日に東京池袋ロータリーアクトクラブの献血例会に合わせ、北分区ロータリーリーダーを池袋東口にて献血バスチャーターという形式で開催しました。コロナ禍の中でできるロータリーリーダーと言うことで実施しましたが、ロータリーのPRという観点では課題も残りました。このコロナ禍が早く収束し、もとのクラブライフに戻れることを切に望み、次年度に引き継ぎたいと思います。

鈴木 憲興 ガバナー補佐

(東京王子 RC)



2020～2021年度ガバナー補佐を務めました東京王子ロータリークラブの鈴木です。

昨年6月23日の東京荒川ロータリークラブから始まり、7月9日の東京リバーサイドロータリークラブまでガバナー補佐の拝命挨拶から始まり、7月15日の東京浅草中央ロータリークラブから11月10日の東京荒川・東京リバーサイド2クラブ合同ガバナー訪問例会まで無事終了できましたことは、誠にありがたく厚くお礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス禍のもと、今年度は各クラブとも例会の臨時休会が多く、ガバナー補佐としての活動が十分にできなかったことをお詫び申し上げます。

特にインターシティーミーティングを兼ねた北分区全クラブによる合同例会が中止となり、そしてコロナの感染拡大防止を最優先にしたとは言え、年度内に3回を予定していた会長幹事会が、1回目の開催のみとなってしまったことは申し訳ありませんでした。

しかし、北分区の東京浅草中央ロータリークラブがホストクラブとして、万全の感染防止対策のもと、地区大会が無事開催できたことについては、地区内各クラブのご協力に感謝申し上げます。

新型コロナの緊急事態宣言が5月31日まで延長されている現況から、どこで終息するのかまったく不明です。一日も早く普段のロータリー活動が取り戻せることを願って、1年のお礼といたします。

金谷 政次 ガバナー補佐

(東京東 RC)



昨年の令和2年7月にガバナー補佐に就任しましたが、準備期間として1月頃から開始し、皆様と共に活動してまいりました。

東分区のガバナー補佐は3名で、私の受け持ちクラブは東京江東 RC、東京城東 RC、東京向島 RC、東京ベイ RC、東京東 RC です。

イベントは伝統的な親睦ゴルフ大会担当でした。ゴルフ大会の開催担当は東京江北 RC で、当日朝の事故渋滞以外は滞りなく進み、円滑に終了することができました。その表彰式は3月8日のIM開催日に行われました。

ガバナー補佐の役目を遂行する間、感じ入りましたのは、各クラブの皆さまの精力的で積極的な活動の様子です。例会も和気あいあいと進行し、笑顔で積極的に行動されておられるため、つい雰囲気引き込まれてしまいました。

各クラブカラーや伝統にも目を見張り、様々な工夫には感激するとともに参考になりました。

新型コロナ感染症まん延の影響で、皆さまとお会いする機会の多くが失われ、ロータリー活動が制限されることは残念な限りですが、ロータリーの会員であれば原則に副って挽回していけるでしょう。やがてウィルスの収束により平常の生活を取り戻せた時、偉大な皆さまのパワーを発揮することができると思っています。

廣田 健史 ガバナー補佐

(東京向島 RC)



歲月人を待たず、時の流れは例外なく人の行動努力に関係なく過ぎていき、人の都合で留まることはありません。

振り返ってみると、小生がガバナー補佐の重責を拝命しあつという間の1年でした。

年度に入る前、野生司ガバナーの熱い思いがこもった方針をうかがい、メンバーと友に果たすべき役割を深く心に刻みスタートしました。

しかし、この1年は新型コロナウイルスが世界の重大事となり、未だ収束処か再拡大の様相を呈しており、私が担当する各クラブとの連携も難しく、クラブ会長も例会開催の判断に苦慮し、クラブの奉仕事業も満足にできない状況の中で、せめて新型コロナウイルス感染症への対応方法について模索しながら活動して参りました。

東分区のメイン事業であるインターシティーミーティングは、担当する海老沼ガバナー補佐と東京江戸川ロータリークラブホストのもとで実行委員会20数回を重ね、開催の可否も含め感染防止対策や方法等で熱く議論されましたが、水野パストガバナーを特別講師として迎え、IMは無事に開催されました。

東分区の皆様には会場で収録されたビデオをクラブ例会で見てください、キャッチフレーズの通り「クラブ例会でIMに参加しましょう！」をお願いいたしました。

コロナ禍での対応として、皆様からも良い評価をいただいています。

東分区の合い言葉、東分区は一つのごとくであり、IMは各クラブからの代表参加でしたが、ロータリーの良さが再認識されました。

さて、昨年7月のスタート時、ロータリーメンバーの各社は新型コロナウイルスによる影響が続いており、会員減少に拍車がかかるのではないかと危惧されましたが、大きな減少には至りませんでした。

ほとんどの会社で何らかのダメージを受けていると思われませんが、苦難の時にこそロータリーの果たすべき大きな役割があるのではないのでしょうか。

増加に歯止めがかからない新型コロナウイルス感染症に対し、緊急事態宣言が再発令され、医療の逼迫、行政の各種要請、経済対策、オリンピック・パラリンピック対応など、社会を取り巻く環境は大きく変化しており、身近な問題が多数ありますが、社会に奉仕するロータリークラブとして理念に従って活動し、役割を果たしてこのコロナ禍を乗り越えたいと思います。

海老沼 孝二 ガバナー補佐

(東京江北 RC)



無事にガバナー補佐の務めを果たすことができました。こ

れも各クラブの皆様のご協力の賜物と感謝しております。

ただ残念だったのは、コロナ禍によりクラブ例会や奉仕活動が制限され、各クラブの皆様が思う存分活動が出来なかったことです。

しかしながら、こんな時だからこそ私たちは「ロータリーとは何なのか？」を考える機会も得ることができました。

今年度の野生司ガバナーの重要テーマは「ロータリーの公共イメージを向上し会員増強を図る」。難しいテーマです。それがコロナの緊急事態宣言発令で更に難しくなりました。

そんな悩み苦しみから、会員の心の声を聴いてみようと思いい各クラブに呼びかけたところ、300名余りの協力を得ることができ、ロータリアンの素直な気持ち解りました。

皆様の声に励まされ、コロナ禍での東分区分IMではリモートによる水野正人PGの「基調講演」、7名のパネラーによるパネルディスカッション「東分区分ロータリアンの声」を開催することができ、臨場感のある映像収録ができました。

そして、これをクラブ例会で会員にYouTube映像で視聴参加して頂くという、新しい形でのIMとなりました。

基調講演を頂いた水野正人PG、声を届けてくれたロータリアンの皆様、ホストクラブの東京江戸川RCの皆様には、良き仲間としてご協力を頂き感謝の気持ちでいっぱいです。

コロナの更なる感染の拡大も心配され、次年度も多大な影響を受けるかとは思いますが、皆様の英知により新たな息吹が芽生えて来ることを期待しております。

一年間ありがとうございました。

■ IMの映像は以下のURLから視聴できます。

第一部〔30分〕<https://youtu.be/nt455GFQKEw>

第二部〔38分〕<https://youtu.be/9pzUHsZxJzQ>

飯村 雅洋

ガバナー補佐

(東京武蔵野中央 RC)



東京武蔵野 RC、東京小平 RC、東京田無 RC、東京東久留米 RCへ5回、例会場の確保が困難な東京保谷 RCへ3回、東京武蔵野中央 RCへ2回の訪問を終えました。重要課題である会員増強と公共イメージ向上にはついては、毎回の会長幹事連絡協議会で話し合いをしてきました。会員候補者には、何故自身がそのクラブの会員であるのか、クラブはどのような良い活動をしているのかを話すことが必要であり、入会後には、しっかりとオリエンテーションを実施し、ロータリアンである意義を考えることにより活発な活動ができることを理解していただきました。

COVID-19の感染拡大で例会開催への影響が多大であり、東京

田無 RCと東京保谷 RCは例会場が使用できず、限られたスペースでリモート併用による例会を余儀なくされております。

このような事態の中でも奉仕活動をしっかりされています。

東京小平 RCは社会福祉協議会へボッチャ用具の寄贈、東京田無 RCは東日本大震災の被災地に新設された女川町立女川小中学校へ電子黒板寄贈、東京東久留米 RCは日赤と合同で会員、家族で献血及び地域住民への啓発と、地元の小学5、6年生を対象にしたサッカー協会へ支援等です。

3月2日に開催しましたインターシティミーティングはCOVID-19の影響で開催するか否かを熟慮しました。しかし各クラブが情報共有のできる唯一の機会であるので、ソーシャルディスタンスと感染防止対策をとり、会場参加者を50名、他の会員はライブ配信で参加していただくことにしました。「クラブの成長と分区の活性化」をテーマに、会員増強並びに公共イメージ向上のパネルディスカッションと奉仕活動情報交換を行い、まずまずの評価をいただきました。

一年間積極的に活動をしていただいた、各クラブの会長・幹事並びに会員のみなさまに感謝申し上げます。

小峰 博昭

ガバナー補佐

(東京青梅 RC)



新型コロナウイルスのパンデミックがマスコミから報道されてから一年半が過ぎようとしています。本年度はロータリークラブ活動に関わらず、その状況を慎重に把握しながらすべての活動のスケジュールの変更をせざるを得ない状況でありました。会員の命に係わることで、安全を第一優先にし諸々の判断をした次第であります。これは私の基本的なコンセプトであります。

分区に於きましては、この様な状況の中会員からの素晴らしい企画が有り、何とか実現に向けて行動したのですが残念ながら上記の理由で実現出来ませんでした。同じ様にIMに関しましても緊急事態宣言等により中止にせざるをえず、申し訳なくも残念な実績の無い年度になってしまいました。

各クラブの会長、幹事の皆さんに於かれましては、先輩諸氏をはじめ何方も未経験の事態でありますので大変難しい判断をされた事と思います。暗中模索でとても不安な一年だったと思いますが、前代未聞の大変貴重な一年を経験をした訳で有りますから、この経験が将来の試金石となる年度にして頂ければと思いますし、次年度以降の為に是非とも記録に残して頂きたいと思います。

最後に成りましたが、ガバナー補佐として決して満足の出来る年度では有りませんでした。会長、幹事、出向者の皆さんをはじめ会員の皆さんロータリークラブに対しての熱い思いを身近に感じさせて頂き深く感謝致します。有難う御座いました。

安里 政晃 ガバナー補佐

(那覇 RC)



沖縄分区では三度の緊急事態宣言と現在継続中の蔓延防止等重点措置のもと各クラブとも例会運営をはじめ様々な活動に対して制限が加わり大変な思いをされながら活動をされた一年だったと思います。そんな中でもコロナ禍で困っている方々への支援等を積極的に取り組んでいただいた各クラブの皆様には、ただただ頭の下がる思いであり、改めてロータリーの存在意義を感じることができた一年でもありました。

カバナー公式訪問に関しては三度の延長を経て zoom による公式訪問を余儀なくされたクラブもありますが、すべてのクラブで公式訪問ができましたことに胸をなでおろしているところです。ご尽力いただきました全ての皆様へ心より御礼申し上げます。

残念だったことは、IM を中止せざるを得なかったことと、クラブ訪問の回数が大幅に減ったこと、他のカバナー補佐の皆様と交流がなかなかできなかったことですが、今後のロータリー活動で挽回できるよう努めてまいります。

最後に至らないカバナー補佐ではありましたが、野生司カバナーをはじめとする地区の皆様、各クラブ会長幹事をはじめとするロータリアンの皆様のお支えで無事一年間過ごすことができました。心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

西村 眞一 ガバナー補佐

(那覇東 RC)



2020～2021年度のガバナー補佐としての1年がもうすぐ終わろうとしています。

思い起こせば、2019年の10月3日から始まったガバナー補佐エレクト連絡会を、沖縄から東京へ向かう飛行機の中で、いろいろなことを考えながら、緊張の中でも、これから迎えるガバナー補佐としての沖縄と東京の行き来を楽しみにしておりました。

残念ながら、翌年の2月20日の第4回目の会議を終えたところで、それから1年間東京へ行くことはできませんでした。

当初の自分自身の熱い思いや通常行われるであろうことのほとんどが行われず、残念な思いが大きく残る反面、それと同じくらい、ロータリーのことを真剣に考えることができた1年でした。

安全を第一に考え、例会を長期間休会するクラブ、仲間との出会いを大事にするためハイブリッド又はオンラインでの開催を模索するクラブ、それぞれのクラブの会長との話し合いを通じて、大いに勉強させられました。

私たちはこの1年、これまでにない大きな混乱の中で、迷いながらも多くの決断をし、活動を続けてきましたが、この1年間の経験はこれからのロータリー活動に間違いなく価値ある教訓を与え、これからのロータリーの発展に大きく貢献していくものと考えます。

【哀悼】 謹んで哀悼の意を表します

東京王子ロータリークラブ

おがわ めいじ
小川 明治 会員



逝去日 2021年4月26日 享年 81
入会日 1980年12月3日
大東化工機株式会社 代表取締役会長
ポール・ハリス・フェロー
ベネファクター
米山功労者メジャードナー

ご厚意に対し、深く感謝申し上げます

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

3回 田中 久光 (浦添)

1回 新城 恵子 (浦添)

米山功労者・メジャードナー

17回 千葉 嘉胤 (東京新宿)

11回 嶋村 文男 (東京東江戸川)

米山功労者・マルチプル

3回 青木 宏義 (東京新都心) 小澤 徳 (東京王子)

大濱 達也 (石垣)

2021年4月30日分まで 敬称略 順不同

会員数報告

2020年7月1日 クラブ数	70	RC
2020年7月1日 会員数	2,868	名
(内女性)	203	名
2021年3月31日 クラブ数	70	RC
2021年3月31日 会員数	2,910	名
(内女性)	220	名
2020-21年度入会者	184	名
2020-21年度退会者	141	名
2020-21年度会員増減数	42	名

2021年3月31日現在